

古代出羽南部における菊花状痕跡を有する土器集成

吉田 満

1 はじめに

奈良・平安時代の遺跡調査では、土師器や須恵器などの土器が多量に出土する。それらの土器の底部には成形の痕跡が残ることが多い。ロクロを使用した切離し方法（回転ヘラ切り・回転糸切り・静止糸切りなど）や、木葉痕、ムシロ痕などがある。その形態の違いは、遺物の年代を求める指標のひとつにもなっている。

上記で示した痕跡の他に、本稿の題材として挙げた菊花状の痕跡がある。標記通り、菊の花のように花卉が廻る様が痕跡として残るもので、他に「放射状の痕跡」と呼称されるものでもある。本稿では、出羽南部に位置する山形県内での菊花状の痕跡を有する土器資料収集を目的とし、出土状況などを基に本資料の性格を検討し、今後の基礎資料としたい。

2 研究史

菊花状の痕跡についての研究はあまり行われておらず論考も数少ない。初めての報告は1953年『古代』誌上の「青森縣森田村附近の遺跡調査概報（第2次調査）」とされる（西村・桜井1953）。それ以降も東北北部地域で50を超える遺跡で出土が報告され、1972年坂詰秀一氏により、菊花状の痕跡を有する須恵器の分布領域が東北北部から北海道南部に限られていることが指摘されている（坂詰1972）。近年の研究では利部修氏の論考（利部2008）がある。東北北部（青森・岩手・秋田・宮城）から北海道南部にかけての広範囲で出土した菊花状の痕跡を有する土器の製作工程や分布等について言及されている。また、本資料の年代が9世紀から10世紀にわたって存続すること、施文される土器の大部分が高台を有する土器であることが報告されている。

山形県内では、清水北C遺跡（米沢市）で初めて確認され報告されている。その後、境田C遺跡（山形市）のSD1より多量に出土し、報告書内で詳しい内容が記載されている。その後も、古代遺跡の調査で出土し報告さ

れてきたが、菊花状痕跡そのものについての論考がなされずに今日に至った。

3 研究方法

県内の発掘調査報告書から当該資料を検索・抽出し集成した。報告書によっては、拓影図のないもの、文章・観察表での記載がないものもあった。本資料が出土した遺跡名・遺構・年代などの情報も収集し、菊花状痕跡の研究資料とする。

4 収集成果

集成の結果、46の遺跡で、総数418点の資料を確認した。出土遺跡位置図（図1・2）、土器集成図¹⁾（図3～8）、型式分類図（図9）や、出土遺跡一覧（表1）、遺構別出土状況（表2）、遺構別出土件数（表3）、出土遺構の年代（表4）を作成し成果を示した。詳細は項目毎に記載する。

遺跡分布 46遺跡で菊花状の痕跡を有する土器の出土を確認した（図1・表1）。県内の庄内・最上・村山・置賜の4地域で広く確認された。庄内地方では最上川以北のみに分布し、以南では確認されなかった。最上地方では、古代遺跡の調査件数が少ないこともあり、1件のみにとどまった。村山地方では主に山形市北部～天童市南部（図2）に出土遺跡が集中している。直径約8kmの範囲内に15の遺跡が位置している。それより以南では確認されなかった。置賜地方においては、広く分布し、特に一部に集中することは確認されない。

古代遺跡の分布として、平野部かつ河川に近い場所に営まれる傾向にあるが、今回収集した遺跡も最上川やその支流に近い場所に営まれている。ただし、平野山窯跡は遺跡の性格上、平野の周縁部に位置する。

出土数 総数418点を確認した（表1）。出土数を6区分にし、目視化した表を作成した。遺跡毎の出土数は4個以下の出土遺跡が大半以上（33/46）を占める。最も多く出土したのが、古志田東遺跡（米沢市）の164点、

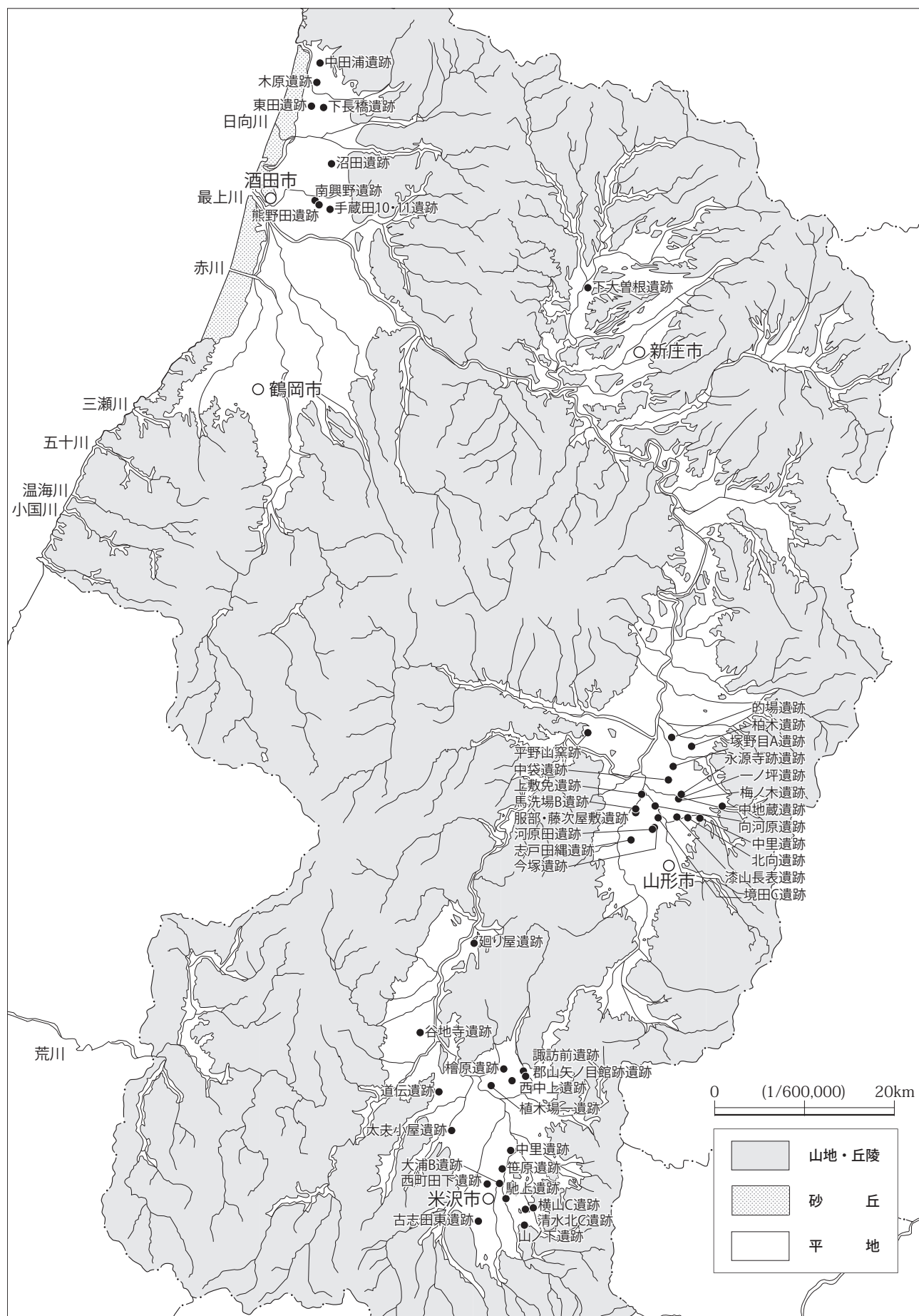


図1 出土遺跡位置図

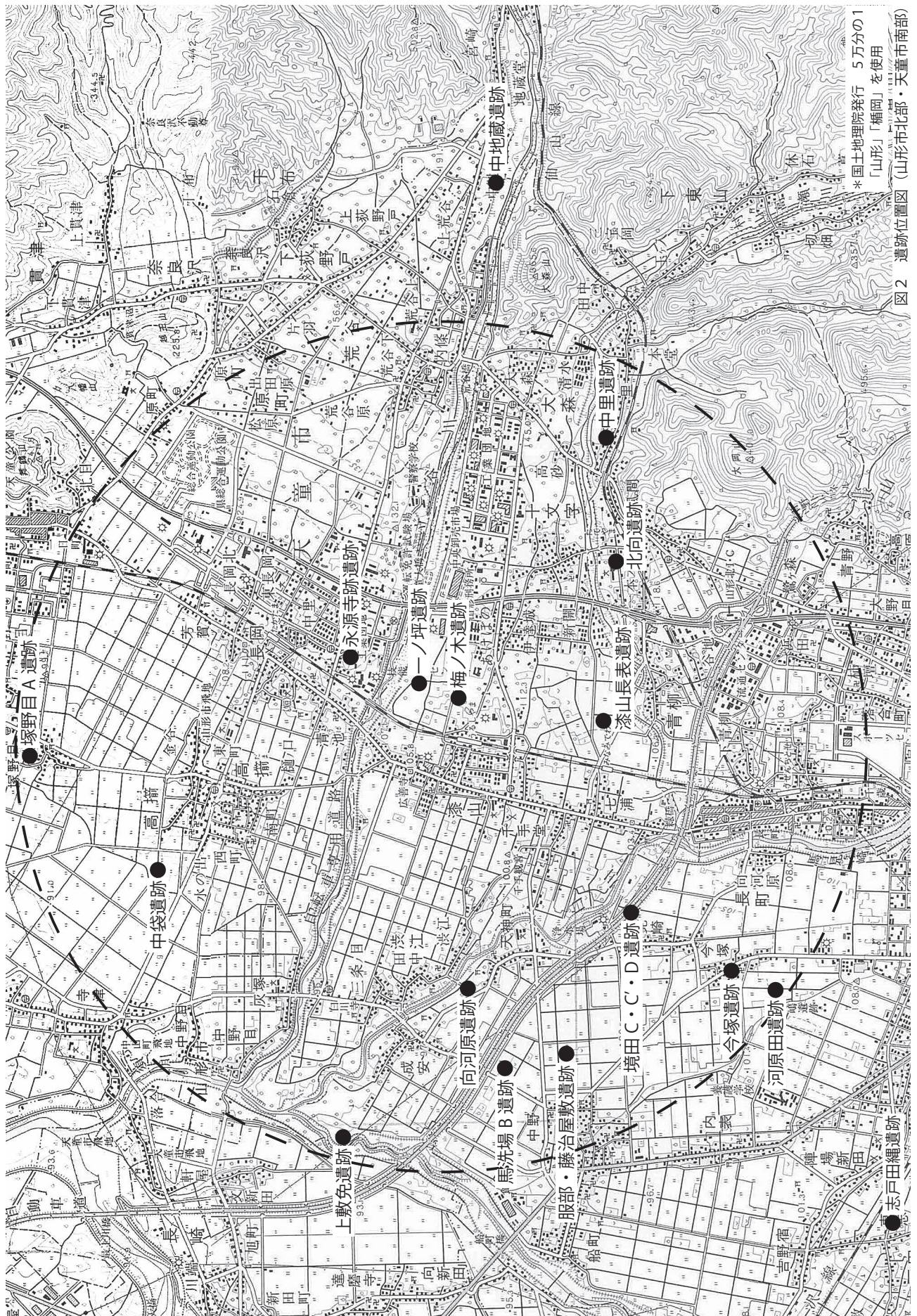


表1 出土遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	出土数						報告書
			1～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～	
1	中田浦遺跡	遊佐町当山	1						県教委 185 集 (1993)
2	木原遺跡	遊佐町宮田	1						県教委 186 集 (1993)
3	東田遺跡	遊佐町庄泉	3						県教委 165 集 (1991)
4	下長橋遺跡	遊佐町小原田		5					県教委 130 集 (1988)・145 集 (1989)
5	沼田遺跡	酒田市大島田	1						県教委 78 集 (1984)
6	南興野遺跡	酒田市南興野	1						県教委 114 集 (1987)
7	熊野田遺跡 (第3次)	酒田市熊野田	1						県 146 集 (1988)
8	手蔵田 10・11 遺跡	酒田市手蔵田	1						県 124 集 (1988)
9	下大曾根遺跡	鮎川村庭月	3						埋文セ 182 集 (2010)
10	平野山窯跡群	寒河江市柴橋	1						埋文セ 52 集 (1998)
11	的場遺跡 (第2・3次)	天童市成生	3						埋文セ 126 集 (2004)
12	柏木遺跡	天童市久野本	1～						—
13	塚野目 A 遺跡	天童市塚野目	1						天童市教委 22 集 (1999)
14	中袋遺跡	天童市高掬						38	埋文セ 97 集 (2002)
15	永源寺跡遺跡	天童市清池		7					埋文セ 86 集 (2001)
16	一ノ坪遺跡	山形市漆山		6					山形市教委 12 集 (2001)
17	梅ノ木遺跡	山形市漆山		5					埋文セ 78 集 (2000)
18	中地藏遺跡	山形市山寺	4						埋文セ 77 集 (2000)
19	上敷免遺跡	山形市成安	3						埋文セ 159 集 (2007)
20	馬洗場 B 遺跡	山形市中野					23		埋文セ 123 集 (2004)
21	服部・藤治屋敷遺跡	山形市中野	2						埋文セ 119 集 (2004)
22	向河原遺跡	山形市渋江				19			埋文セ 111 集 (2003)・141 集 (2005)
23	境田 C・C'・D 遺跡	山形市境田						50	県教委 62 集 (1982)・76 集 (1984)
24	漆山長表遺跡	山形市青柳	2						埋文セ 58 集 (1998)
25	北向遺跡	山形市風間					23		山形市教委 27 集 (2006)、埋文セ 146 集 (2006)・154 集 (2006)
26	今塚遺跡	山形市今塚	1						埋文セ 7 集 (1994)
27	河原田遺跡	山形市河原田	2						山形市教委 22 集 (2004)
28	志戸田縄遺跡 (第2・3次)	山形市陣馬	1						埋文セ 92 集 (2001)
29	廻り屋遺跡	白鷹町荒砥	2						埋文セ 27 集 (1995)
30	谷地寺遺跡	長井市九野本	1						長井市教委 27 集 (2007)
31	檜原遺跡 (第2・3次)	南陽市西落合	2						埋文セ 185 集 (2010)
32	諏訪前遺跡	南陽市	1						県教委 102 集 (1986)
33	郡山矢ノ目館跡遺跡	南陽市郡山	1						南陽市教委 1 集 (1984)
34	植木場一遺跡	南陽市宮崎	1						埋文セ 59 集 (1998)
35	西中上遺跡	南陽市高梨	1						埋文セ 158 集 (2007)
36	道伝遺跡	川西町下小松		5					川西町教委 8 集 (1984)
37	太夫小屋遺跡 1・2	川西町時田		8					埋文セ 81 集 (2001)
38	大浦 B 遺跡	米沢市中田町	1						米沢市教委 67 集 (2000)
39	中里遺跡	米沢市窪田			10				埋文セ 75 集 (2000)
40	笹原遺跡	米沢市中田町	3						米沢市教委 7 集 (1981)
41	西町田下遺跡	米沢市塩井町	1						埋文セ 44 集 (1997)
42	馳上遺跡	米沢市川井	1						埋文セ 101 集 (2002)
43	横山 C 遺跡	米沢市竹井	2						県教委 168 集 (1991)
44	清水北 C 遺跡	米沢市八幡原	1						米沢市教委 2 集 (1976)
45	山ノ下遺跡	米沢市万世町	2						埋文セ 169 集 (2008)
46	古志田東遺跡	米沢市林泉寺						164	米沢市教委 73 集 (2001)

表 2 遺構別出土状況 (1)

No.	遺跡名	遺構名	個数	遺構の年代	ロクロ土師器				土師器			須恵器		
					有台坏 (ミガキ調整)			高台皿	有台坏 (ミガキ調整)			有台坏	双耳坏	壺
					なし	内面	両面		なし	内面	両面			
1	中田浦遺跡	遺構外	1	—										1
2	木原遺跡	SX938	1	10 世紀第 2 四半期		1								
3	東田遺跡	SK374	1	10 世紀				1						
		SK681	2	10 世紀				1						
4	下長橋遺跡	SX105	1	10 世紀代			1							
	下長橋遺跡	SK22	1	—		1								
		SK28	2	10 世紀第 2 四半期		2								
		遺構外	1	—				1						
5	沼田遺跡	遺構外	1	—	1									
6	南興野遺跡	SK202	1	10 世紀後半頃		1								
7	熊野田遺跡 (第 3 次)	SD5	1	9 世紀末葉～10 世紀初頭		1								
8	手蔵田 10・11 遺跡	SE584	1	10 世紀頃		1								
9	下大曾根遺跡	SK55	1	—	1									
		SK57	1	—	1									
		SK152	1	10 世紀第 1 四半期	1									
10	平野山窯跡群	SQ33	1	9 世紀第 2 四半期								1		
11	的場遺跡 (第 2・3 次)	SG2639	1	9 世紀中葉以降		1								
		SD624	1	平安時代前期	1									
		遺構外	1	—		1								
12	柏木遺跡	—	1～	—										
13	塚野目 A 遺跡	SD3	1	—	1									
14	中袋遺跡	SK1	8	10 世紀第 1 四半期										
		SK2	12	—										
		SD5	2	9 世紀第 4 四半期～10 世紀第 1 四半期	1	1								
		SK574	1	—		1								
		SX357	1	—		1								
		SX238	2	—	1						1			
		SK564	1	—		1								
		SP207	1	—		1								
		SP263	1	—			1							
		SP569	1	—		1								
		SD6	1	9 世紀第 3・4 四半期							1			
		SD166	2	—	1	1								
		SX23	1	—	1									
		遺構外	4	—	1									
15	永源寺跡遺跡	ST489	1	—	1									
		ST814	3	10 世紀初頭	1	2								
		SG267	1	—	1									
		SX694	1	—		1								
		遺構外	1	—		1								
16	一ノ坪遺跡	SI12	2	10 世紀前半	2									
		SI50	1	10 世紀前半	1									
		SK03	1	—	1									
		SK17	1	—					1					
		SK64	1	—							1			

表2 遺構別出土状況 (2)

No.	遺跡名	遺構名	個数	遺構の年代	ロクロ土師器				土師器			須恵器		
					有台坏（ミガキ調整）			高台皿	有台坏（ミガキ調整）			有台坏	双耳坏	壺
					なし	内面	両面		なし	内面	両面			
17	梅ノ木遺跡	ST6	1	—		1								
		ST9	1	9世紀後半	1									
		ST11	1	—	1									
		SK2	2	9世紀後葉	1	1								
18	中地藏遺跡	ST1	2	9世紀後半	1	1								
		遺構外	2	—	1	1								
19	上敷免遺跡	ST39	2	10世紀前半	2									
		SK41	1	9世紀後半～10世紀初頭			1							
20	馬洗場 B 遺跡	SE862	1	—		1								
		SD366	1	—		1								
		SD861	1	—	1									
		SD417	1	—	1									
		SP426	1	—		1								
		SG699	5	—	2	3								
		SG754	7	—	5	2								
		遺構外	6	—	5	1								
21	服部・藤治屋敷遺跡	SK344	2	10世紀初頭	2									
22	向河原遺跡	ST44	1	—						1				
		ST54	1	—						1				
		SE154	1	9世紀第4四半期～10世紀第1四半期		1								
		遺構外	6	—	1	5								
	向河原遺跡（第5・6次）	ST697	4	10世紀	2	2								
		ST545	2	10世紀	1	1								
		ST554	1	10世紀		1								
		ST557	1	9世紀後葉			1							
		SX1096	1	—	1									
		SX798	1	—		1								
23	境田 C 遺跡	SK	1	—	1									
		SP8	1	—		1								
		SP10	1	—	1									
		SX1	11	—		5	6							
		遺構外	5	—	2	2	1							
	境田 C' 遺跡	遺構外	1	—	1									
境田 D 遺跡	SD1	30	9世紀末葉～10世紀	13	16	1								
24	漆山長表遺跡	ST2	1	9世紀末～10世紀初頭		1								
		遺構外	1	—	1									
25	北向遺跡	SI1005	2	9世紀後葉	1	1								
	北向遺跡（第1次）	ST8	2	10世紀中葉～後葉		2								
		ST85	1	9世紀前半	1									
		ST89A	1	—	1									
		ST94	1	—						1				
		ST100B	1	9世紀末～10世紀初頭	1									
		ST100C	3	—	2	1								
		ST12	1	9世紀末～10世紀前半	1									
ST35	1	9世紀中葉～後葉	1											

表 2 遺構別出土状況 (3)

No.	遺跡名	遺構名	個数	遺構の年代	ロクロ土師器				土師器			須恵器		
					有台坏 (ミガキ調整)			高台皿	有台坏 (ミガキ調整)			有台坏	双耳坏	壺
					なし	内面	両面		なし	内面	両面			
25	北向遺跡 (第 1 次)	ST36	1	—	1									
		SK1	1	—		1								
		SK5	1	10 世紀中葉～後葉	1									
		SP10	1	—						1				
		遺構外	1	—		1								
	北向遺跡 (第 2 次)	ST492	1	—	1									
		ST523	1	9 世紀中葉									1	
		SK622	1	9 世紀後半		1								
		SK626	1	9 世紀後半		1								
		SK627	2	—	1	1								
		SK629	1	—		1								
26	今塚遺跡	SG200	1	9 世紀後半		1								
27	河原田遺跡	SD4	2	8 世紀後葉～10 世紀前葉	1		1							
28	志戸田縄遺跡 (第 2・3 次)	遺構外	1	—						1				
29	廻り屋遺跡	ST12	1	—		1								
		遺構外	1	—	1									
30	谷地寺遺跡	—	1	9 世紀末葉	1									
31	檜原遺跡 (第 2・3 次)	SG3026	2	—		1	1							
32	諏訪前遺跡	遺構外	1	9 世紀後半～10 世紀代	1									
33	郡山矢ノ目館跡遺跡	—	1	—							1			
34	植木場一遺跡	SK520	1	9 世紀後半							1			
35	西中上遺跡	SD61	1	—	1									
36	道伝遺跡	SD35	5	9 世紀～10 世紀後半		2	3							
37	太夫小屋遺跡 1	SK101・102・103	1	—			1							
		SD749	1	9 世紀前半			1							
		SX250	3	—			1							
		SX908	1	—		1								
		ST400	1	—			1							
	太夫小屋遺跡 2	遺構外	1	—								1		
38	大浦 B 遺跡 (第 6・7 次)	遺構外	1	—	1									
39	中里遺跡	遺構外	1	—		1								
		SX2627	3	—	2	1								
		SE2608	5	—		3	2							
		SD27	1	—	1									
40	笹原遺跡	SD3	3	9 世紀中葉～後半										
41	西町田下遺跡	SG1.2T3	1	—		1								
42	馳上遺跡	SG2131	1	9 世紀中葉～末葉								1		
43	横山 C 遺跡	ST3	2	10 世紀中頃～後半	2									
44	清水北 C 遺跡	SK15	1	—	1									
45	山ノ下遺跡	SX160	2	9 世紀代	1		1							
46	古志田東遺跡	KY1	164	9 世紀中葉～末葉	53	91	20							
		合計	418		143	182	44	3	1	2	8	3	1	1

境田 C・C'・D 遺跡 (山形市) の 50 点、中袋遺跡 (天童市) の 38 点と続く。調査面積等の要因もあるが比較的出土量が少なく、大量に出土するのは特別な事柄の存在が考

えられる。

出土遺構 46 遺跡で、延べ 131 件の遺構から出土した。主に集落跡内で検出される竪穴式住居 (ST)、溝跡 (SD)、

表3 遺構別出土件数

No.	遺跡名	遺構数	遺構								遺構外
			ST	SD	SG	SE	SK	SP	SQ	SX	
1	中田浦遺跡	1									1
2	木原遺跡	1								1	
3	東田遺跡	2					2				
4	下長橋遺跡	4					2			1	1
5	沼田遺跡	1									1
6	南興野遺跡	1					1				
7	熊野田遺跡(第3次)	1		1							
8	手蔵田10・11遺跡	1				1					
9	下大曾根遺跡	3					3				
10	平野山窯跡群	1							1		
11	的場遺跡(第2・3次)	3		1	1						1
12	柏木遺跡	1									1
13	塚野目A遺跡	1		1							
14	中袋遺跡	14		3			4	3		3	1
15	永源寺跡遺跡	5	2		1					1	1
16	一ノ坪遺跡	5	2				3				
17	梅ノ木遺跡	4	3				1				
18	中地藏遺跡	2	1								1
19	上敷免遺跡	2	1				1				
20	馬洗場B遺跡	8		3	2	1		1			1
21	服部・藤治屋敷遺跡	1					1				
22	向河原遺跡	10	6			1				2	1
23	境田C・C'・D遺跡	7		1			1	2		1	2
24	漆山長表遺跡	2	1								1
25	北向遺跡	20	12				6	1			1
26	今塚遺跡	1			1						
27	河原田遺跡	1		1							
28	志戸田縄遺跡(第2・3次)	1									1
29	廻り屋遺跡	2	1								1
30	谷地寺遺跡	1									1
31	檜原遺跡(第2・3次)	1			1						
32	諏訪前遺跡	1									1
33	郡山矢ノ目館跡遺跡	1									1
34	植木場一遺跡	1					1				
35	西中上遺跡	1		1							
36	道伝遺跡	1		1							
37	太夫小屋遺跡1・2	6	1	1			1			2	1
38	大浦B遺跡	1									1
39	中里遺跡	4		1		1				1	1
40	笹原遺跡	1		1							
41	西町田下遺跡	1			1						
42	馳上遺跡	1			1						
43	横山C遺跡	1	1								
44	清水北C遺跡	1					1				
45	山ノ下遺跡	1								1	
46	古志田東遺跡	1			1						
	合計	131	31	16	9	4	28	7	1	13	22

表4 出土遺構の年代

地域	年代								遺跡名（遺構名）
	9世紀				10世紀				
	前葉		中葉	後葉	前葉		中葉	後葉	
	1	2	3	4	1	2	3	4	
庄内									木原遺跡（SX938）
									下長橋遺跡（SK28）
									南興野遺跡（SK202）
									熊野田遺跡（SD5）
最上									下大曾根遺跡（SK152）
村山									平野山窯跡（SQ33）
									中袋遺跡（SK1）
									中袋遺跡（SD5）
									中袋遺跡（SD6）
									永源寺跡遺跡（ST814）
									一ノ坪遺跡（SI12・50）
									梅ノ木遺跡（ST9）
									梅ノ木遺跡（SK2）
									中地藏遺跡（ST1）
									上敷免遺跡（ST39）
									上敷免遺跡（SK41）
									服部・藤治屋敷（SK344）
									向河原遺跡（ST557）
									漆山長表遺跡（ST2）
									北向遺跡（SI005）
									北向遺跡（ST8）
									北向遺跡（ST85）
									北向遺跡（ST100B）
									北向遺跡（ST12）
									北向遺跡（ST35・SK5）
									北向遺跡（ST523）
									北向遺跡（SK622・626）
									今塚遺跡（SG200）
置賜									谷地寺遺跡
									植木場一遺跡（SK520）
									太夫小屋遺跡1（SD749）
									笹原遺跡（SD3）
									馳上遺跡（SG2131）
									横山C遺跡（ST3）
									古志田東遺跡（KY1）

河川跡（SG）、井戸跡（SE）、土坑（SK）、ピット（SP）、性格不明遺構（SX）、出土地点が不明なものは遺構外とした。集落跡以外では、窯跡（SQ）資料も1件確認されている。

遺構による出土割合を求めてみた（表3）。竪穴住居跡（31件）、土坑（28件）、遺構外（22件）、溝跡（16件）、性格不明遺構（13件）、河川跡（9件）、ピット（7件）、井戸跡（4件）である。遺構別で比較すると建物

出土の割合が高い。遺構の性格で、建物（ST）、水に係る遺構（SD・SG・SE）、それ以外（建物・水に係る遺構以外）、遺構外（出土遺構不明も含む）の4つに分類した。その結果、それぞれ大きな差が認められない。この結果だけで推測する限り、特別な使用用途は考え難く、遺構に関係なく土器として使用・廃棄されたと考えざるを得ない状態ではないだろうか。

遺構別の出土数については、比較的、河川跡・溝跡な

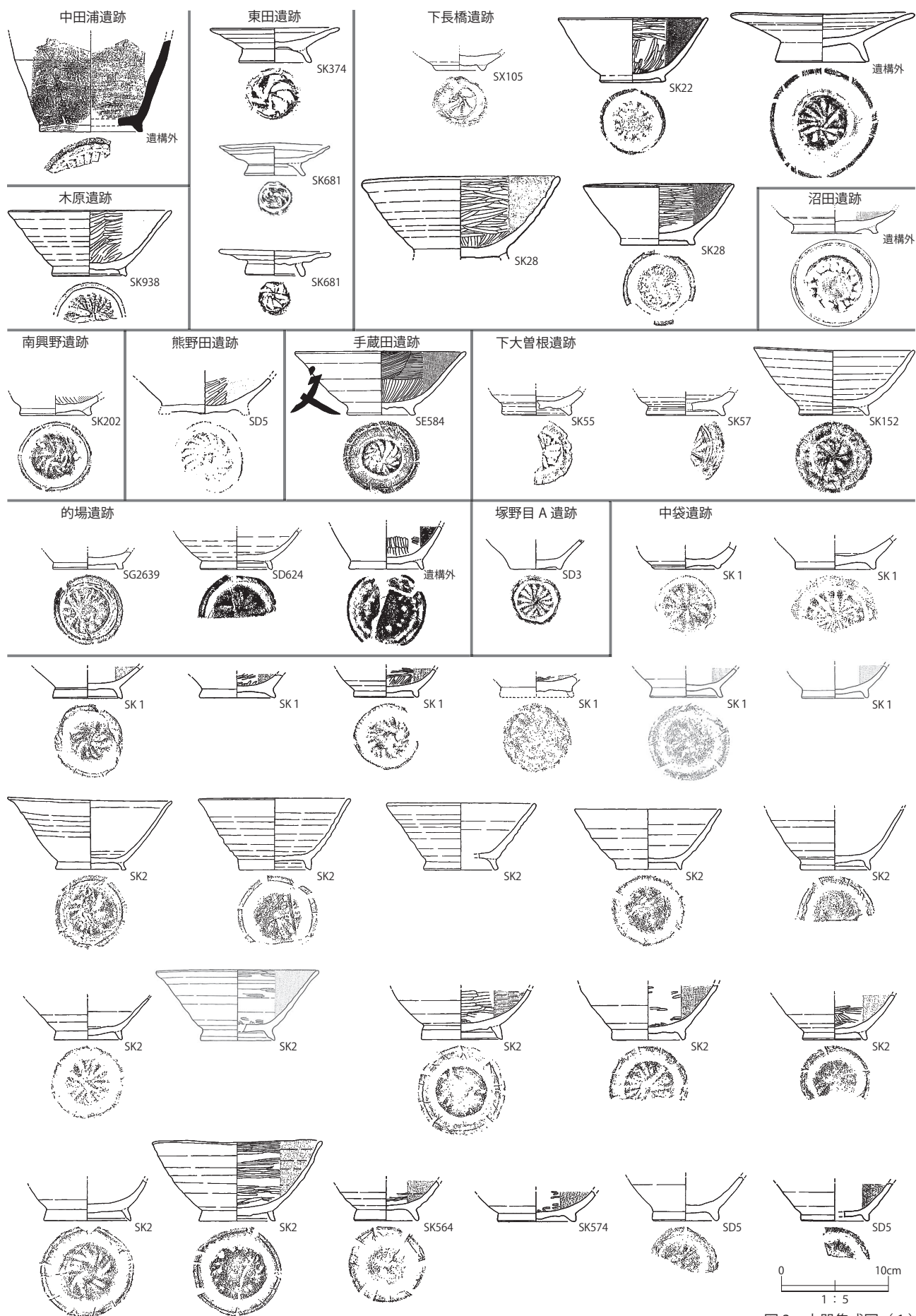


図3 土器集成図(1)

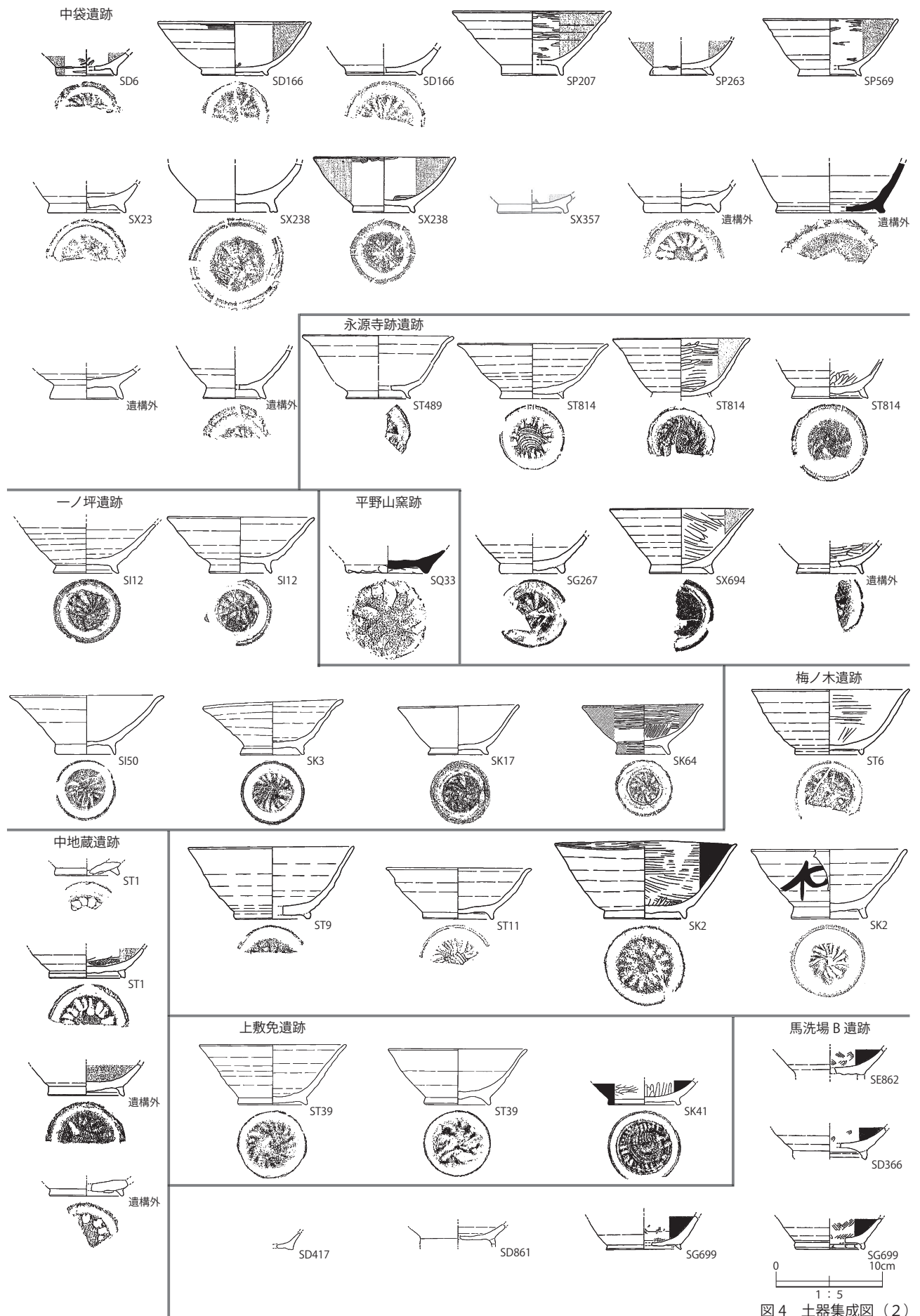
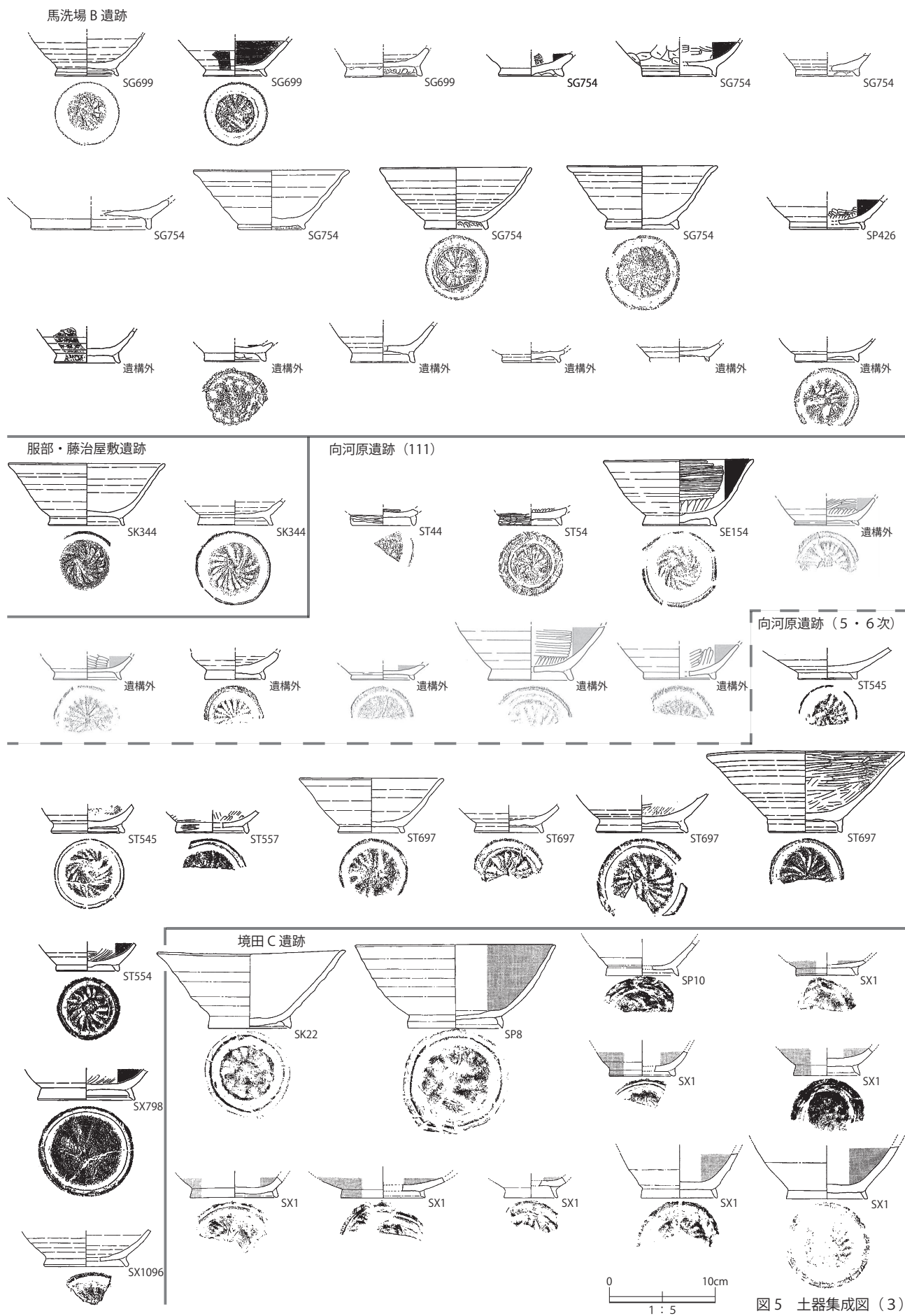


図4 土器集成図(2)



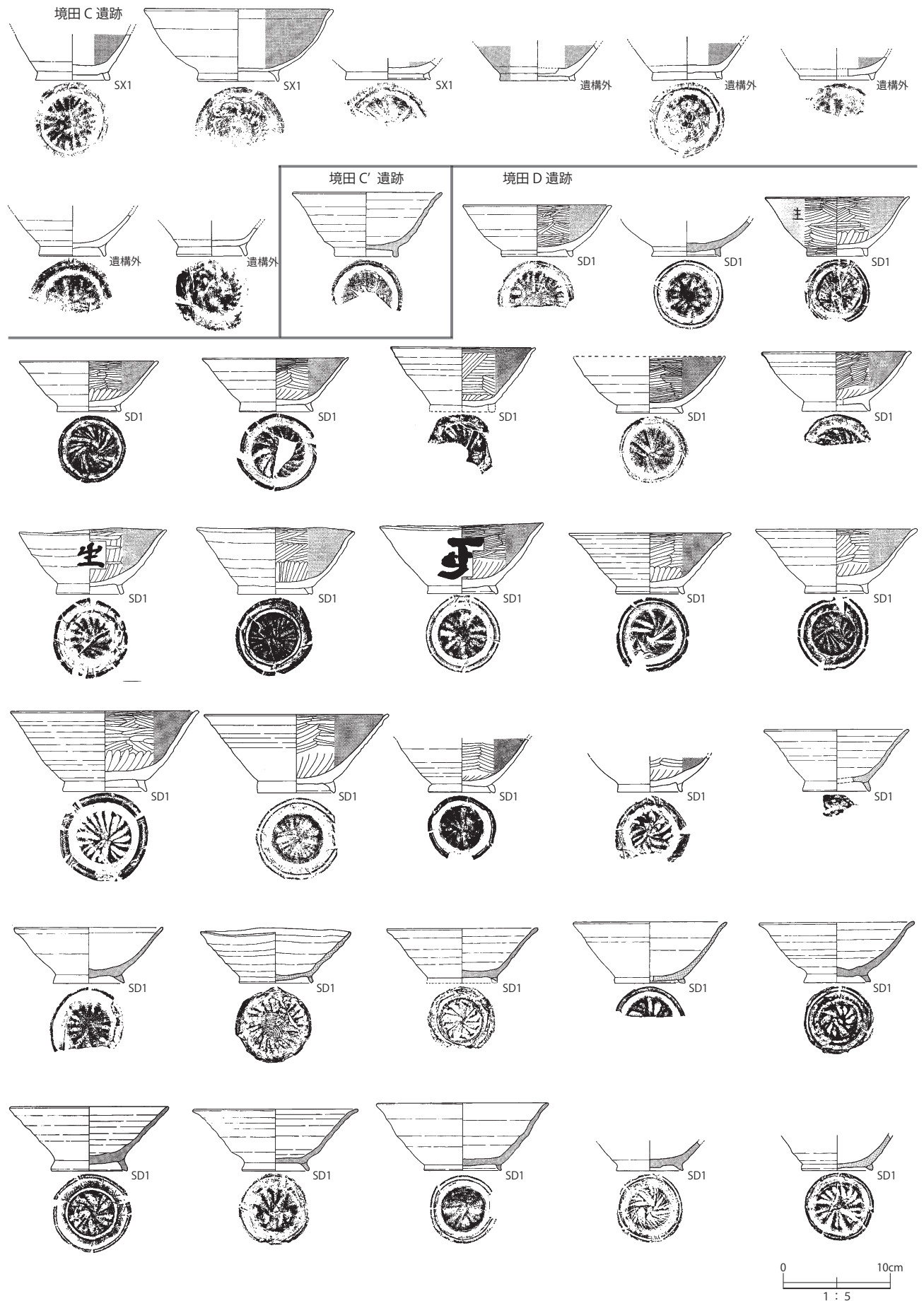


図6 土器集成図(4)

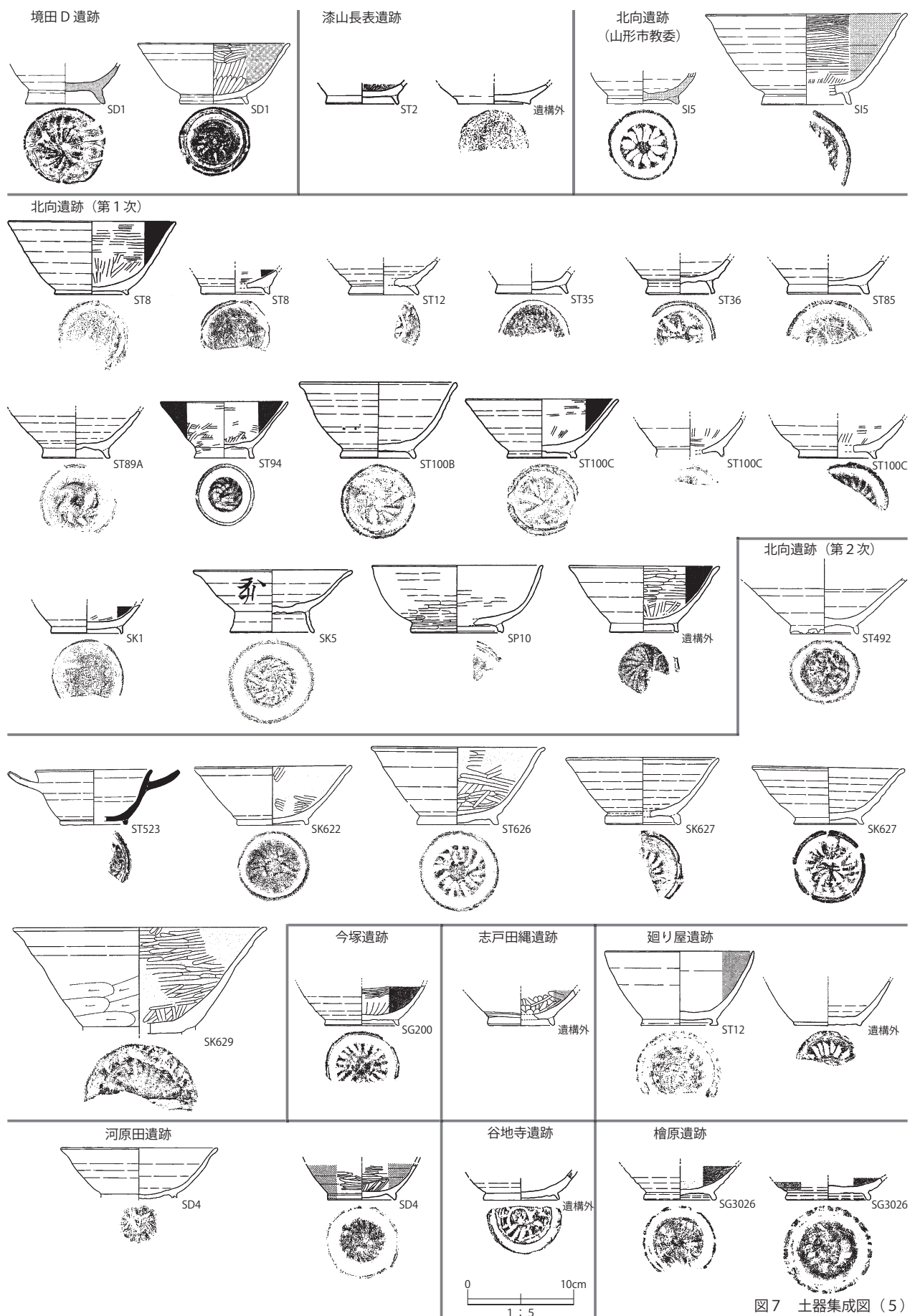


図7 土器集成図(5)

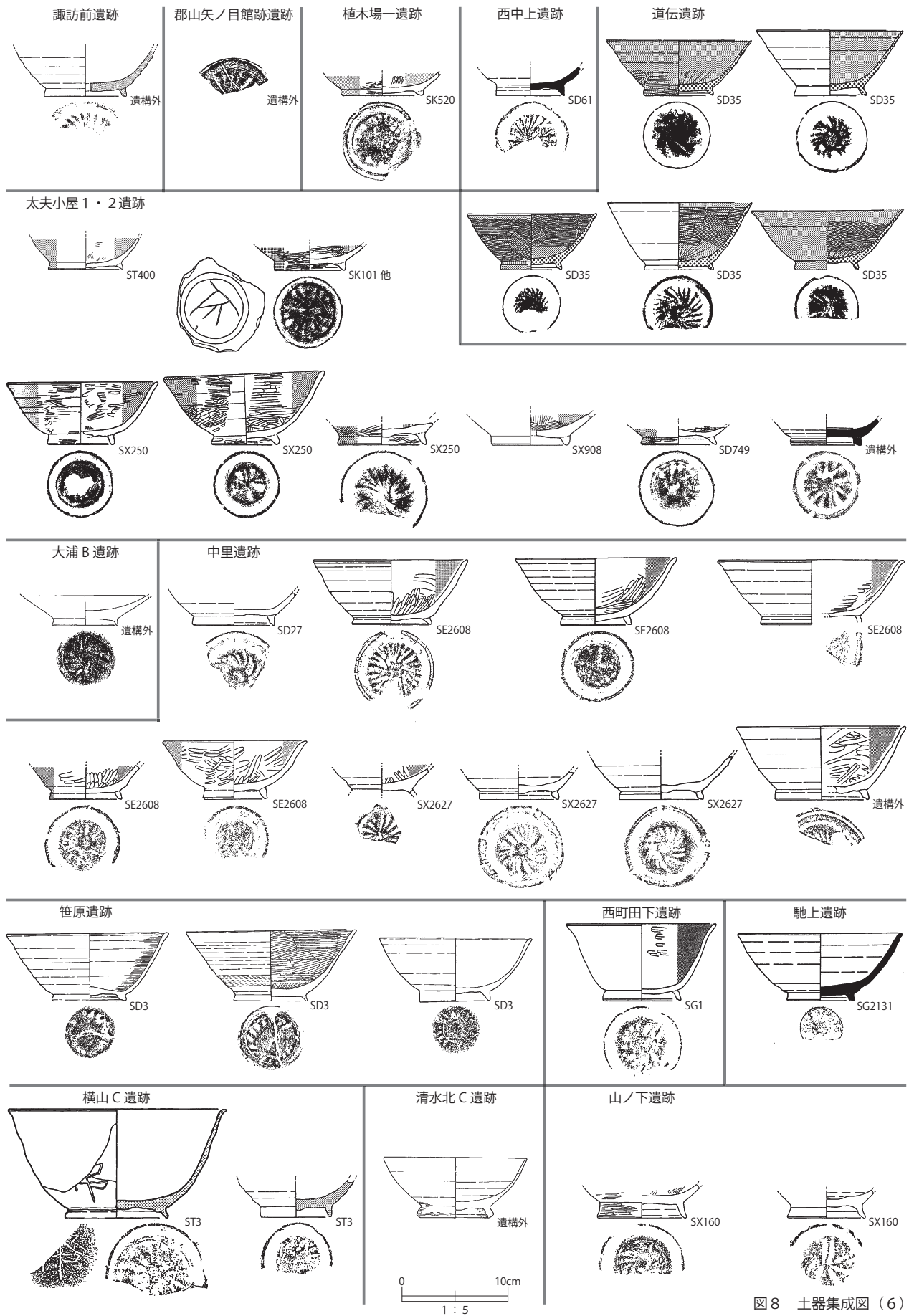
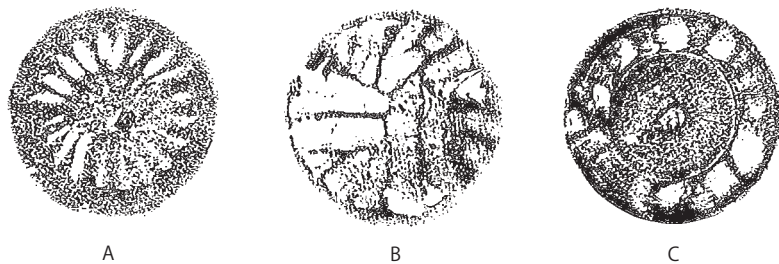


図8 土器集成図(6)



- A 菊花状ナデ調整
B 菊花状不整ナデ調整
C 菊花状ナデ同回転ナデ調整

＊『古志田東遺跡』底部切離の調整より抜粋

図9 菊花状の型式

どの、土器が廃棄される性格の遺構は出土数が多い傾向にある。実際、古志田東遺跡のKY 1 河川跡で164点、境田C遺跡のSD1 溝跡で30点で前述の通り、出土量が多い。そのため、本稿では遺構別の出土数の算出は行っていない。

また、遺跡別の出土遺構数では、大半以上が1件のみとなっている。地域毎で観察すると、庄内・最上地域は遺跡数が少ないため傾向はわからないが、置賜地域では出土遺構数が1件と少ない傾向があり、村山地域では置賜地域に比べ比較的出土遺構数が多い。最も出土遺構数が多いのが北向遺跡で20件、中袋遺跡で14件、向河原遺跡で10件と続く。比較的、図2で示した範囲内の遺跡では出土数が多い傾向である。

土器形態 表2に遺跡・遺構毎の土器形態を示した。主にロクロ成形の土師器で高台を有する高台杯が多い。種別として、ロクロ成形土師器(374点)が多く、非ロクロ成形土師器(11点)・須恵器(6点)と続く(種別が不明な資料も存在する)。全て台を有する器種で、高台杯が385点、高台皿が3点、壺が2点、双耳杯が1点である。また、土師器のミガキ調整の有無で観察すると、ロクロ成形・非ロクロ成形共に、ミガキ調整を伴う資料の方が多い傾向である。須恵器資料が確認されたのは、中田浦遺跡(遊佐町)、中袋遺跡(天童市)、平野山窯跡(寒河江市)、北向遺跡(山形市)、太夫小屋遺跡(川西町)、馳上遺跡(米沢市)の6遺跡で、器種は土師器と同様、高台を有する高台杯・双耳杯・壺である²⁾。資料数は少ないものの、県内全域で確認される。

土師器は供膳具の高台杯が主体となり、須恵器は出土数が少ないものの、供膳具の高台杯以外にも貯蔵具の壺があり、施文される土器の様相が異なる。

施文部位 全て高台の中に施文されるもので、他の部位には施文されていない。

土器の年代 土器の年代は、主に出土遺構の年代を用いた。ただし、河川跡・溝跡では比較的年代幅が広いため、

参考資料とする。

収集の結果、9世紀前半頃から10世紀後半頃までの約200年に限定される。また、置賜・村山・最上・庄内4地域毎に見てみると、地域によって、出現期が異なり、終焉時期はどの地域もほぼ10世紀第4四半期頃である。置賜・村山地域では9世紀前半頃、庄内地域では、明らかな9世紀代の遺物が確認できないことから10世紀以降の出現と考えられる。最上地域においては、前述した通り、出土遺跡が1件のみのため、出現期・終焉期共に不明である。

痕跡の名称 「菊花状」また「放射状」という表記で報告され、前者の表現が多く用いられている。

施文方法 土器や拓影図を観察する限り、木製の工具を用いて施文されていると考えられている。主に拓影図の痕跡の幅を計測すると、工具幅約6mm前後のものが多い。また、施文の幅が6mmを大きく超えるものが多少見られ、指先によるナデツケで施文されたと考えられるものもある。指先と想定されるものは、工具の痕跡よりも幅が広いことと、施文で起こる凹凸が少ないことがあげられる。施文の手順は、底部周縁部から中央部へやや螺旋状に施文し、時計回りに同じ行為を連続し行っているものが多い。ただし、その工程が高台の取り付けの前後どちらかで行われているのか不明である。

型式分類 古志田東遺跡のKY 1からは県内では最多となる164点が出土した。報告書では主に土器の実測図のみの報告にとどまり、拓影図の報告は僅かである。その中で、底部切離の調整として10種類提示され、そのうち3種類が菊花状の痕跡が挙げられている。「菊花状ナデ調整」・「菊花状不整ナデ調整」・「菊花状ナデ同回転ナデ調整」の3種類で、本稿ではそれぞれをA～Cと呼称することとする(図9)。観察表による内訳はAが124点、Bが32点、Cが8点で圧倒的にAが多く、Cが少ない。KY 1の年代は9世紀中葉～後葉と半世紀以上の時期幅がある。その遺構から3型式の菊花状の痕跡

があることから、3種類の製作技法が同時期に存在していたことが推測された。

5 考 察

ここでは、今回の収集成果を受け、筆者の見解を述べていきたい。

土器の年代 収集の結果、9世紀前半頃から10世紀後半にかけて存続し、東北北部地域の存続時期とほぼ同時期であることが確認された。出現期である9世紀前半頃は、ロクロ成形の底部切離技法が「回転ヘラ切り→回転糸切り」へと移行する時期とされている（阿部・水戸1999）。今回収集した拓影図を観察すると、回転糸切り後に施文されているのが確認できる資料が数点存在する。逆に回転ヘラ切りと断定できる資料は皆無である。つまり、切離技法が回転糸切りに移行後、菊花状の痕跡が施文されるようになったと予想される。

また、出羽南部における9世紀第2四半期～第3四半期頃、ムシロ底土器の出現期とされている（伊藤2010）。出現期のムシロ底土器が出土している遺跡として境田C遺跡が報告されている。同遺跡からは、遺構は違うものの、菊花状の痕跡を有する土器も出土している。明確な根拠はないが、僅かな時期差はあるものの、何らかの関係が窺われると筆者は考えている。

型式分類 古志田東遺跡でのみ型式分類が行われ、3型式が挙げられている。この3型式をベースに全資料の観察を試みたが、拓影図のみでは判断し難い内容であった。痕跡の凹凸が不明瞭なためか、拓影図にハッキリと表現されず確認できない資料が多数見受けられた。

本稿では詳しい型式分類を提示することができなかったが、ある程度の内容を確認することができた。それは以下の通りである。

①種別・器種 ロクロ成形土師器・非ロクロ成形土師器・須恵器の3種別があり、記載順に出土量が多い。また、器種は全て台を有し、高台坏を主体に、他に高台皿・双耳坏・壺がある。また、土師器はさらにミガキ調整の有無でも分類される。

②施文範囲 大きくは2つに分類される。1つが底部中央部から周縁部まで広く施文されるもの、2つ目が底部中央部を除き、途中から周縁部にかけて施文されるものである。2つ目においては、中央から周縁部まで一度施

文した後に中央部分のみナデ消したもの、初めから中央部を除いて施文するものに細分される。全て、底部の中心を意識し、施文していることが予想される。

③施文方法 底部周縁から中央部にかけて直線的またやや螺旋状に施文されている。整然と規則的に施文されるものと、そうではなく不規則的な施文もある。

④施文道具 主に木製工具のようなものを使用するのが多いようである。工具幅約6mm前後が多い。また、指先で施文されたと観察されるものも僅かにある。

上で示した4点の項目において、ある程度の型式分類を行うことが可能である。ただし、今回収集した拓影図のみでは、施文内容が不明瞭な資料も多く存在した。意図的に不明瞭な施文を行った可能性もあるが、改めて資料を実見し作業を行う必要がある。

施文技術の伝播 庄内・最上・村山・置賜の4地域の出現期は、村山・置賜が9世紀前半、次いで庄内が10世紀と予想される。この様相から検討する限り、県南から北上していくことが予想される。村山・置賜共に詳細な出現期が不明なため、両者の前後関係も不明である。

庄内地域は東北北部地域に隣接しているが、本資料の出現時期は比較的遅い。明確な根拠はないが、伝播ルートは最上川に沿って北上したものではないだろうか。

6 まとめ

本稿では、古代出羽南部に位置する山形県における菊花状痕跡を有する土器研究の発端として、資料収集を主体とした内容となった。確認された事項は以下の通りである。

①46遺跡で418点の出土を確認した。

②窯跡出土を除いて全て集落跡からの出土である。集落跡のあらゆる遺構から出土した。遺構との明確な関係性は確認できなかった。明確な使用用途も不明である。

③庄内・最上・村山・置賜各地域で広域にわたって分布し、特に山形北部～天童南部地域で出土遺跡が集中する。

④施文される土器は全て台を有する器種で、大部分がロクロ土師器高台坏が占め、須恵器の資料は僅かである。

⑤施文部位は高台内の底部である。

⑥底部周縁部から中央部にかけて、直線的また、やや螺旋状に施文し、同じ行為を時計回りに繰り返すものが

多い。ただし、施文範囲・施文道具にはいくつかのバリエーションが存在する。

⑦存続時期は9世紀前半頃から10世紀後半頃までの平安時代で、東北部地域と同時期であることが確認された。出現期、終焉時期もほぼ同時期であることから、菊花状の痕跡は広範囲に亘ってある程度規格的な土器として存在していたことが予想される。

⑧菊花状痕跡の出現期（9世紀前半頃）の資料が出土した境田C遺跡では、出現期のムシロ底土器も出土している。僅かな時期差の中で、新たな様相の土器が出現していることに何らかの関係性が窺われる。

以上の事項が確認・考察されたが、それ以上に不明な点や、必要な資料の確認作業がある。本稿では、前述した通り、主に資料収集がメインとなっている。本稿を基礎資料とし、土器資料の実見と共に型式分類を行い、時間的な変化・地域性など確認する作業を進めていきたい。

最後に本稿を執筆するにあたり、伊藤邦弘氏・高桑弘美氏両名にご指導いただいた。記して謝意を表する。

註

- 1) 古志田東遺跡出土の実測図は拓影図が明示されておらず、集成図には掲載することはできなかった。
- 2) 西中上遺跡 SD61 出土資料（図8）は須恵器として図化されているが、ロクロ土師器の間違いである。

引用文献

- 阿部明彦・水戸弘美 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会
- 伊藤武士 2010 「平安時代におけるムシロ底土器の出現と展開」『北方世界の考古学』すいれん舎
- 利部修 2008 「北日本の須恵器についての一考察」『出羽の古代土器』同成社
- 坂詰秀一 1972 「津軽・持子沢窯跡の調査」『考古学ジャーナル』76号 ニュー・サイエンス社
- 菅原祥夫 2000 「平安時代における蝦夷系土器の南下 ―蝦夷の移住をめぐって―」『阿部正光君追悼集』阿部正光君追悼刊行会
- 西村正衛・桜井清彦 1953 「青森縣森田村附近の遺跡調査概報（第2次調査）」『古代』第10号 早稲田大学考古学会
- * 出土遺跡の報告書の記載は割愛した（表1参照）